

異常気象に備える「転ばぬ先の杖」

毎年、異常気象が来るものと心構え、いまから出来る準備を積極的に行ってください。

暑いとき

土壤の異常還元（ワキ）に注意!!

耕深が浅い場合、生ワラが一気に分解を進みガス（硫化水素等）が発生し土壤が酸素欠乏になります。酸欠状態になると根の伸長が抑えられ、葉色が淡く、分けつ不足となります。圃場に足を入れた時に「ブクブク」と発生する気泡が、軽い場合は水の入れ替えを行い、盛んに気泡が発生する場合は夜間落水とし、土中に空気を入れます。6月中旬で茎数が目標茎数の8割となった場合は中干しの準備に入ります。

茎数が不足している場合は、**硫マグ**（硫酸根肥料）を施肥（現物20kg/10a）し、茎数確保に努めます。更に、葉色が淡い場合は、**硫安**（現物5kg/10a程度）を追肥しますが、散布時期は6月20日頃までとします。

曇天・低温時

分けつ確保を最優先!!

浅水管理による日較差を利用し分けつを促進させますが、低温時は深水管理で保温管理とします。

基肥一発型肥料のみ施用の圃場は、**硫安**（現物5~10kg/10a程度）追肥し、肥効（溶出）の遅れを補います。

基肥でケイ酸肥料を施用していない場合

どのような気象であっても、稲とケイ酸は「密」な関係。

高温時…葉で行う「呼吸」により稲体温度を下げ、光合成を盛んにし、十分な稔りにつなげます。

低温時…茎・根の活力を向上させ、分けつ確保に働きます。細胞がケイ酸の「鎧」をまとうことにより、いもち病菌の侵入を防ぎ、健全な稲体を維持します。

ケイ酸は、**最高分けつ期以降、急激に吸収される**ので、6月下旬以降の散布は「効果が半減」します。

けい酸加里 (20kg/10a)

ケイ酸と加里を含み、葉を硬くし受光体勢を良好化することにより登熟が向上します。

おぼこロマン大地 (40kg/10a)

速効の「ケイサンエース」を70%含み、効率的にケイ酸を供給します。**※在庫限り**

マグコープ (20kg/10a)

リン酸と良食味米に寄与する苦土を含み、土壌を選ばない中間追肥資材です。

シリカ未来 (20~40kg/10a)

ケイ酸と鉄を同時に供給し、根の活力を高めます。秋落ち田の改善にも。

葉いもち防除は予防第一で

令和3年、4年と一部地域では、いもち病の発生が多くなりました。いもち病は一度発生すると広範囲に感染が広がり、食い止めるのが難しい病気です。昨年の発生地域を中心に警戒を怠らずに徹底防除をしてください。

補植用余り苗は速やかに処分

補植用余り苗は、圃場にあるだけでいもち病の伝染源となります。補植作業が終わったら、ただちに土中に埋没するなど確実に処分してください。

もしも、見つけたら。。

いもち病を見つけたら速やかに予防剤と治療剤の混合剤の茎葉散布を行います。併せて、営農センター・購買課へご相談ください。

ほ場の“密”にご注意を

田植え時に苗が重なって密植になっている箇所や、肥料が重なり葉色が濃密になっている箇所等“密”圃場を中心に、いもち病無防除圃場の隣接圃場も合わせて、定期的に病斑が発生していないか様子を確認してください。

主食用米以外もいもち防除を

WCSや飼料用米等のほ場でもいもち防除を必ず行ってください。

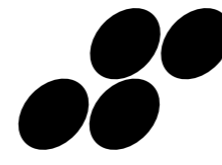
葉いもち予防のための箱処理剤や側条施用を行っていない場合は必ずオリゼメートを散布してください。

薬品名	オリゼメート粒剤（予防）
散布時期	6月15日頃（6/12~6/18）
散布量	2~3kg/10a

緊急対策時（例）

薬品名	散布時期	散布量
ブラシン（予防・治療）	発生確認時	粉剤DL：3~4kg/10a フロアブル：1,000倍液 60~150リットル/10a

No.3



安心のネットワーク
NOSAI

農業技術情報

令和5年5月発行

発行：秋田おぼこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所
監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課



適期田植えで生育量確保 異常還元対策、除草剤適期散布を

本年は雪解けが早く、圃場での作業はやや早く進んでいます。春先の圃場づくりがこの後の栽培管理につながりますので、丁寧な作業をお願いします。

先人からの教えのとおり育苗は苗半作と言われるほど重要な作業です。育苗ハウス内温度管理の徹底や追肥などして健苗に育て上げて、田植え後の素早い活着でスタートさせましょう。

今月の栽培技術留意点

健苗育成

田植えの1週間前頃に弁当肥として追肥を行います。苗が栄養不足状態で田植えをすると活着（発根）に時間を要し初期生育が停滞します。田植え時期に低温や曇天が続くような場合は必ず追肥をして植え痛みの軽減を図ります。苗をよく観察して葉数や葉色に応じた追肥を行ってください。

育苗期追肥の目安（箱当たり窒素g）

葉 齢	稚 苗	中 苗
1.5 葉 期	1 g	-
2.0 葉 期	-	1 g
3.0 葉 期	-	1 g

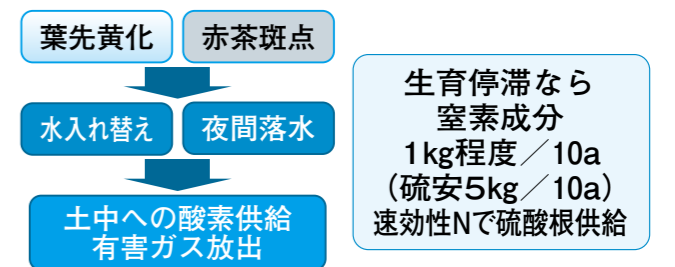
育苗追肥資材例

資 材 名	現物量	窒素成分	水 量
液 肥 2 号	10ml	1.0 g	1,000ml
サイコー12号	8 g	1.0 g	-

※サイコー12号は散布後にかん水を行います。

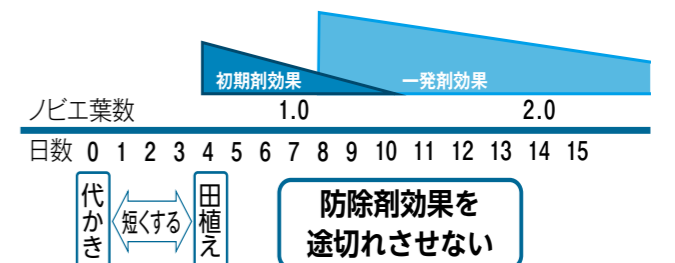
異常還元（ワキ）注意報

本年も異常還元（ワキ）が発生する危険性が高まっています。気温上昇とともに土中の未熟有機物の分解が始まり、ガス発生や土中が酸欠状態となり稲の生育に影響を及ぼします。ポイントは土中の酸素です。土を酸化的状態にすることで抑えられるので実践してみましょう。



雑草対策

本年は雪解けが早かったため、雑草の生育が早まっています。除草剤を適期に散布できるよう計画的に作業をしましょう。初期剤の残効が残っているうちに一発剤を散布し、除草効果を途切れさせないようにすることがポイントです。



初期生育確保に向けてスタートダッシュ

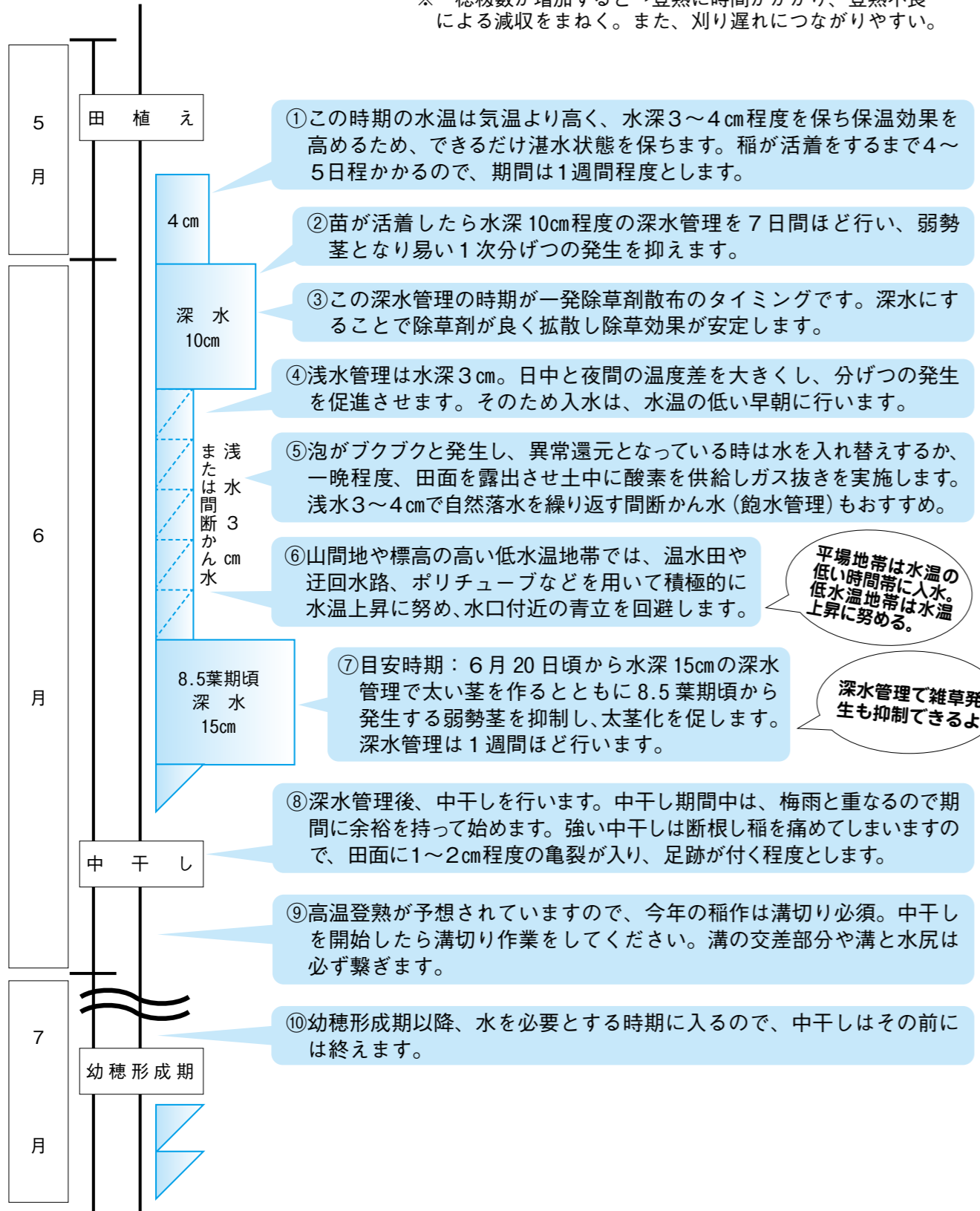
穂の絶対数が少なければ、いくら籾数を多くしても高収量は望めません。分けつ開始から穂数がほぼ決まる7月中旬までにどれだけ必要な茎数を確保できるかがポイントです。初期生育を旺盛にする水管理を心がけてください。

収量計算方程式

$$\text{収量} = \text{穂数} \times \text{籾数} \times \text{登熟歩合} \times \text{千粒重}$$

↑重要!!

※一穂籾数が増加すると→登熟に時間がかかり、登熟不良による減収をまねく。また、刈り遅れにつながりやすい。



除草剤を効果的に効かせるポイント

雪解けが早かったため、雑草の生育進捗が早くなり、除草剤の散布遅れが心配されます。いくら高価な除草剤でも使用時期が遅れたり、田面均平が悪かったり、部分的に水がかからない(露出している)場合、除草剤の効果は十分に発揮されません。

少し早めの散布を!

ラベルに3葉期までと記載されているものでも、0.5~1.0葉程度早めに散布することで、除草剤の効果が安定し、雑草密度を大幅に減少させることができます。(注:代かきから10日間でノビエは2葉期頃になります。)

計画的な作業を!

除草剤効果を一番発揮させるポイントは「タイミング」です。今年は雑草の動きも早いとみられることから散布遅れにならないように、代かき日、田植え日、初期剤散布日、一発剤散布日をしっかり把握し計画的な作業をお願いします。

漏水箇所の点検保守を!

除草剤散布後、葉の層(処理層)が田面に出来るまでおよそ4日かかります。漏水箇所があると処理層の形成がうまくできず効果が発揮されません。

水深5cm以上の確保を!

除草剤成分が拡散していくためには、水深5cm以上の確保が必要です。フロアブル、ジャンボ、豆つぶ剤は7cm以上の水深で拡散が安定します。田面が水面から露出しないようにしてください。

表層剥離(カナ)注意報

今年は異常還元(ワキ)に注意が必要ですが、合わせて表層剥離(カナ)の発生にも注意が必要です。カナは除草剤の処理層を壊してしまうため、除草剤の散布タイミングに注意をしてください。



- 斑点米増加で落等
- 異物(雑草種子)混入
- 収量品質が低下

収入減少
だから、除草防除が必要なのです!

ポイント 降雨後の散布

散布前に水入れ替え

※次の場合、表層剥離の発生が多くなります。
・土中の窒素やリン酸が多い場合。
・側条施肥田植えで、土の戻りが悪く表面に肥料が表われる場合。

とりこぼしたら中後期除草剤

薬剤名	ノビエ	ホタルイ	オモダカ	コナギ	散布方法	成分回数
トドメMF	5~7葉期まで(剤型による)	効果なし	効果なし	効果なし	湛水散布	1
クリンチャー	4~6葉期(剤型による)	効果なし	効果なし	効果なし	湛水散布	1
ヒエクリーン	4葉期まで	効果なし	効果なし	効果なし	湛水散布	1
バサグラン	効果なし	増殖中期まで	発生前期まで	○	落水散布	1
アトトリ	4葉期まで	効果なし	矢尻葉3葉期まで	効果なし	湛水散布	1
ヒエクリーンバサグラン	4葉期まで	4葉期まで	矢尻葉抽出期まで	○	極浅く湛水	2
クリンチャーパス	5葉期まで	増殖中期まで	発生盛期まで	○	落水・極浅く湛水	2
レブラス	4葉期まで	花茎10cmまで	矢尻葉3葉期まで	6葉期まで	湛水散布	4
バイスコープ	効果なし	草丈15cmまで	矢尻葉5葉期まで	3葉期まで	湛水散布	2